

郡山城天守台 展望施設整備事業



郡山城天守台石垣 3Dレーザースキャン測量図

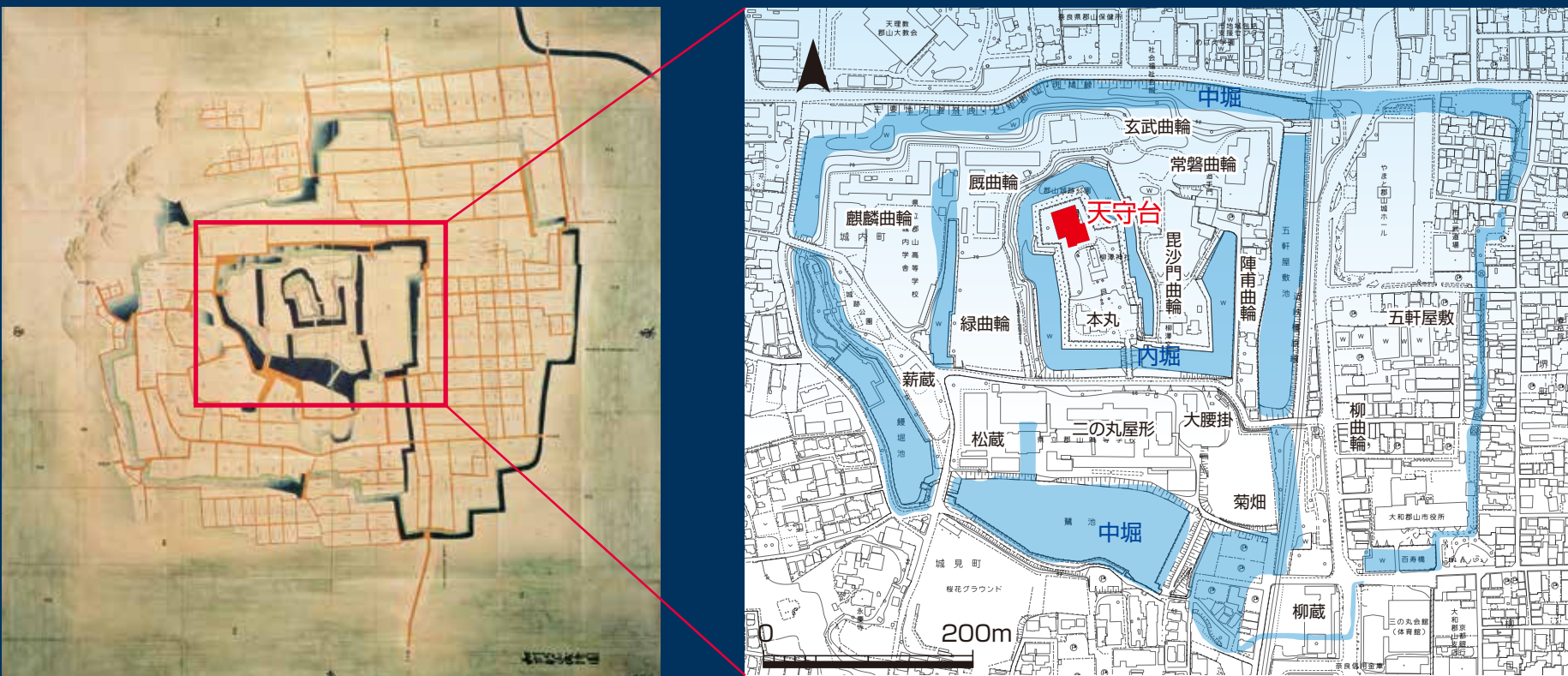
郡山城の歴史

郡山城は、西ノ京丘陵の南端部に築かれた平山城です。天守台のある本丸を中心として内堀・中堀・外堀によって囲まれた総構えの構造をもっています。

天正年間に大和国唯一の城郭として築城を開始し、天正8（1580）年、筒井順慶が入城。城郭の骨格は同13（1585）年に入部した豊臣秀長によって形成されたと考えられています。文禄4（1595）年に入部した増田長盛による外堀普請で完成した城郭の形状は現在までその姿を良好に保っています。

関ヶ原の戦い後一時廃城となりますが、大阪・京都に近い要衝として幕府に重要視されて元和元（1615）年に復興。水野、松平、本多といった譜代大名が相次いで城主となりました。享保9（1724）年以降幕末まで柳沢氏による安定した治世が続き、江戸時代を通じて大和国の政治経済の中心地として繁栄しました。

藩主	在藩期間	在藩年数
筒井順慶	1580(天正8)～1585	5年間
豊臣秀長－秀保	1585(天正13)～1595	10年間
増田長盛	1595(文禄4)～1600	5年間
(在番一廃城)	1600(慶長5)～1615	15年間
水野勝成 →福山藩へ	1615(元和元)～1618	3年間
松平忠明 →姫路藩へ	1618(元和4)～1639	21年間
本多政勝－政長－忠国 →福島藩へ	1639(寛永16)～1679	40年間
松平信之 →古河藩へ	1679(延宝7)～1685	6年間
本多忠平－忠常－忠直－忠村－忠烈	1685(貞享2)～1724	39年間
柳沢吉里－信鴻－保光－保泰－保興－保申	1724(享保9)～1868	144年間



絵図

江戸前期、正保年間に作製された絵図。当時の城下の構造がよくわかります。

中心部と天守台

内堀、中堀で囲まれた郡山城の中心部。多くの曲輪（くるわ）に分かれています。

空からみる郡山城

ヘリコプターによる空中写真撮影を実施しました。郡山城の立地や曲輪（くるわ）の形がよくわかります。



全景（南東上空から）

西ノ京丘陵の南端部に立地する平山城のようすがよくわかります。



城郭中心部（西上空から）

手前が郡山高校城内学舎、奥にやまと郡山城ホールが見えます。



天守台（北上空から）

本丸石垣の上に天守台石垣がのっているようすがよくわかります。

本丸（真上から・上が北）

本丸や内堀の形がよくわかります。

事業の目的

石垣の危険な部位を修理し、誰もが気軽に登れ、眺望を楽しめる展望施設として整備します。

事業期間は平成25～28年の4年間です。

現状

- ・天守台石垣の変位、変形、破損
- ・立入禁止措置による眺望視点の喪失

方針

- ・石垣の保存整備
- ・展望施設としての整備活用

目的

- ・郡山城の魅力向上と地域活性化
- ・地域基盤としての利活用

さまざまな専門的な調査を行い、その成果を設計や工事に活かします。

史料調査

発掘調査

測量調査

地質調査

石垣調査

工学的調査

石垣の旧状

事業開始前、天守台は木々に囲まれ、石垣面は苔で覆われ、路傍の石仏が集められていました。



天守台石垣（北西から）

北西角部を中心に、北面、西面の石垣を見る。周囲に樹木が植えられています。



付櫓台石垣（南東から）

天守台に取りつく付櫓台の石垣。上には 柳沢保申公を祀る祖霊社があります。



天守台北面石垣の孕み（北から）

大きく外側にせり出す孕み出しという現象。かなり危険な状態で、解体修理が必要です。



天守台上の植松桜碑（南東から）

明治33年に嘉仁親王（後の大正天皇）のご成婚を記念して建てられたもの。

石垣の現状

平成26年3月に撮影。周囲の木々を整理し、石垣面の清掃を行い、ようやく天守台石垣の全貌が見えてきました。



本丸・天守台石垣（北東から）

本丸石垣の高さは13mもあります。その上に高さ9mの天守台が築かれます。



天守台石垣（南東から）

奥の高い方が天守台、手前の低い方が付櫓台の石垣。二つの石垣がくっついています。



本丸・天守台石垣（西から）

自然石を目地が通らないかたちで積む、野面乱積み of 石垣のようすがよくわかります。



天守台石垣（南から）

天守台石垣の角部には大きな割石を使う。手前の付櫓台は戦後に積みなおされています。

発掘調査

天守台の発掘調査を実施。天守の礎石が検出され、天守が実在したことが確認されました。



調査地全景（南から）

天守の礎石列を検出。身舎は3間4間、幅2間の武者走りが周り、天守は7間8間の規模。



礎石列と根石（南から）

拳大の根石を置いて根固めを行い、その上に礎石を据え付けます。



根石（南から）

根石には転用材もたくさん使われています。梵字を刻んだ石塔もみられます。

金箔瓦

郡山城ではじめて確認された金箔瓦。菊の文様がある小型の瓦。



発掘調査地の3D画像



空中写真をもとに撮影データを三次元化し、さまざまな角度から立体的に見れるように処理したもの。